

ひるい びがく
比類なき美学を

アルベールカミュの「異邦人」などをミカライズしたフランドーズと、「ベスト」をマンガ化した車戸に、カミュとの接点とミカライズ、制作にまつわる話などを語ってもらった

つづ かい がい
買き続けてきたことから、マンガ界内外で

かく とく
多くのファンを獲得している

ちゅう ぼさく たく せう
応募作は、特設サイトにてオンライン展覧会として展示し、すべての応募作を収録した図録も制作した

コレクターに原画を取り込んで色調整を重ねた上で印刷された原画と並べても見分けのつかないほど精巧なマンガ原稿の複製である

事前に録画された

えい ざう
トークショーの映像は

おお ひと め ふれ
YouTubeにアップロードされ

多くの人の目に触れた

その発展のための体制を推進するネットワークの構築と

ハブとなる拠点の

確立を目的とする

文化庁事業の中心的な役割を、

MROが担い続けている

あた ちよう せん
新しい表現に挑戦し続ける

さつ か はなし
作家たちの話は、

さん か かく せい ふく
イベントに参加した学生を含め、

あ びよう げん しゃ し げん こと なつ た
あらゆる表現者の刺激になった

ちゆう とう にか かわ ら ず、300人 以上 の
有料のイベントだったのにも関わらず、300人以上の申し込みがあり、大きな反響を呼んだ

北アメリカ、南アメリカ、アジア、ヨーロッパなど、世界中から参加した73人の研究者による発表と熱い議論が行われた

い ちよう げん
それ以降

きん ぐ ちゆう げん
イベントに出演することは

きん ぐ ちゆう げん
極めて少なかったため、

きん ぐ ちゆう げん
極めて貴重な話が聞ける

きん ぐ ちゆう げん
機会となった

第1部
はじめに

05 巻頭言 [小泉真理子]

第2部

展示・イベント等事業レポート

第1章 展覧会

10 線と言葉・楠本まきの仕事

13 マンガ・パンデミックWeb展2021

17 日独交流160周年イベント オンラインマンガ大会 ドイツ深掘りマンガ大賞

第2章 イベント

22 忠津陽子×竹宮恵子オンライントークショー

23 飛鳥幸子×竹宮恵子オンライントークショー

24 オンラインシンポジウム マンガ研究者・清水勲を受け継ぐ

25 メカデミア国際学術会議2021 [Ecologies]

31 オンラインイベント「楠本まきトークショー」

32 オンライントークショー「タンタンとスマーフの国、コミック強国・ベルギーの若手作家たち」

33 ジャック・フェランデズ×車戸亮太オンライントークショー「カミュ、マンガになる」

第3章 その他の事業

36 国内外での展示等協力事業

37 文化庁メディア芸術連携基盤等整備推進事業

38 京都国際マンガミュージアム/IMRC所蔵資料および画像データ提供一覧(2021年1月-12月)

39 原画(タッチ)プロジェクト

40 IMRCメンバー業績等

44 あとがき [吉村和真]

巻頭言

小泉真理子「国際マンガ研究センター・センター長」

2021年は国際マンガ研究センター（以下IMRC）が創設されて15年を迎える節目の年であった。IMRCは、マンガに関連した研究を多角的に行うべく、京都国際マンガミュージアムの中核を担う研究機関として、これまでに数えきれないほどの企画展、シンポジウム、国際会議、資料の収集・保存・活用、調査等を、国内外の組織と連携して展開し続けてきた。本報告書の上梓にあたり、まずはここで15年の間に亘り、IMRCの活動にご協力頂いた関係者の皆様に、そして各種イベントにご参加頂いた方々に厚くお礼を申し上げたい。

本年もこれまで培ってきた経験やネットワークを活用して、展示会、講演会、コンペティション、アーカイブ事業等を、産官学連携の体制によりグローバルに実施した。これらの中でも、特に新しい方向性として芽生えてきているのが、コロナ禍という時代背景の後押しも大きくあり、オンライン活用による活動の進展である。例えば、展示会会場に来場できない方々のために展示会の様子をインターネット配信すると同時に、リアルタイムで作家の方による解説を加えたり、昨今ミュージアムの運営における資金調達は大きな課題であるが、オンラインイベントの有料化を試みたりしたことは手ごたえがあった。広く一般から作品を募るオンライン・コンペティションでは、まさに「国際」というセンター名に冠する通り、世界中から千を超える作品の応募があった。さらに、展示会会場の様子や講演会の一部は、YouTubeチャンネル「京都国際マンガミュージアム」に記録をアーカイブしている。これらの活動では、対面で実施していたものを単にオンライン化するに留まらず、オンラインならではの付加価値を加えている。IMRCの活動目的の一つは、マンガとその周辺の研究基盤の人的・情報ネットワークを形成することであり、現在はインターネットにより、さらに幅広く多くの知を集約して発信するための新たなインフラを整えつつある時期ともいえる。

新たなフェーズといえば、マンガをはじめとした文化に対する価値評価が、国内で社会的に強まった一年でもあった。それは、マンガ産業やデジタルコンテンツ産業のデータからも読み取ることができる。マンガ(コミック)の市場規模(紙+電子、推定販売金額)は、ここ3年に亘って急成長を遂げており、2021年は前年比10.3%増の6,759億円と過去最大を更新した(公益社団法人全国出版協会・出版科学研究所調べ)。出版市場全体におけるマンガのシェアは4割をも超えており、いかに日本の出版業界にとってマンガが重要なポジションを占めているか、ひいては日本の社会がいかにマンガに魅了されているかが理解できる。約2年前の新型コロナウイルス感染症が世間を揺るがしはじめた当初は、文化は不要不急ではないかといった議論が見受けられ、一般的には不要とまでいかなかったり、不要不急であるといった考えも多かったように思う(但し、本報告書を手にとって頂いている方々は、マンガに対して肯定的な意見の方が多いと推測される)。しかしながら少し時間が経過してみると、この間に私たちが文化を享受した実体験をもとに、文

化は心を潤す存在として生活に不可欠であるとの認識が高まってきたように感じる。特に感染を心配することなく気軽に楽しむことができるマンガ、ゲーム、映像をはじめとしたデジタルコンテンツの需要の伸びは著しく、業界のリーディングカンパニーは軒並み大幅に業績を伸ばした。日本の企業で言えば、集英社、講談社、任天堂、ソニーは、これまでの各社の歴史の中において、過去最高益や過去最高売上高を記録した。ネットフリックスに代表されるインターネット定額動画配信サービス(SVOD)は、いつのまにか多くの人々が加入して生活の一部となっている。これらのエンターテインメントは、とても身近で手軽な文化として、我々の生活を豊かにしてくれる力を持っている。コロナ禍において、私たちは当たり前前の日常の有難さを改めて強く認識し、その価値の尊さをあらゆる場面で噛みしめて日々を過ごしている。マンガをはじめとした文化に対してもその価値を再評価したのではないだろうか。マンガは日本社会に浸透していることからマンガを観察すると社会の一端がみえてくる。マンガは社会を映す鏡でもある。本報告書はそんなマンガの力をさらに活かすために2021年にセンターが行った活動の記録である。

線と言葉・ 楠本まきの仕事

基本情報

期間

2021年6月10日[木]–8月30日[月]

開催日数

82日間

会場

京都国際マンガミュージアム 2階
ギャラリー 1・2・3

主催

京都国際マンガミュージアム/
京都精華大学国際マンガ研究センター

監修

楠本まき

ゲストキュレーター

楠本亜紀

アート・ディレクター

秋田和徳

協力

Landschaft

ビデオ協力

フライングドッグ

担当

ユースギョン

「KISSxxxx」、「Kの葬列」、「致死量ドーリス」、「赤白つるばみ」シリーズなどの作品で知られる漫画家・楠本まきの37年にわたる仕事を通覧する展覧会。楠本まきは、文学的な言葉の表現と特徴ある黒と白の線描によって構成された画面、装幀のこだわりも含め、比類なき美学を貫き続けてきたことから、マンガ界内外で多くのファンを獲得している。●本展は、これまで行われてきた楠本まきの個展としては最大規模となり、作者本人が展覧会全般を監修したことで、楠本作品の世界観が伝わる展示となった。また、楠本作品の最大の理解者とも言える楠本亜紀と秋田和徳がそれぞれゲストキュレーターとアートディレクターとして参加したことも注目を浴びた。●本展では、耽美で退廃的、巧緻でスタイリッシュな世界を生み出す楠本まきの仕事をテーマにしており、普段は読者の目に触れない原画や、エッチング、全書籍、手書き指定の入った校正紙、ファックス、作品内に描かれた小道具などが展示された。 [文責=ユースギョン]

展示内容

- ・ 楠本まき作品の原画(計30点)
- ・ エッチング、全書籍、手書き指定の入った校正紙、デザイナーと交わしたファックス、作品内に描かれた小道具、「Kissxxxx」のイメージビデオとそのスライドなど。(約150点)

関連書籍記事

- 書籍**
- ・ 展覧会に合わせ、関連書籍『線と言葉・楠本まきの仕事』(Landschaft、2021年)が刊行された。作品解説、楠本へのインタビューや編集者、デザイナーとの対談、京都国際マンガミュージアム館長・荒俣宏による寄稿などを収録。
- 記事**
- ・ 「京都国際マンガミュージアム『線と言葉・楠本まきの仕事』展 作品と制作背景から感じる、こだわり抜いた独自の世界観」『美術展ナビ』2021年8月16日
<<https://artexhibition.jp/topics/news/20210816-AEJ477553/>>
 - ・ 「漫画家 楠本まき 線と言葉に宿る美学 37年をたどる」『朝日新聞』2021年8月6日
<<https://www.asahi.com/articles/ASP844RRZP7YPTFC00G.html>>
 - ・ 「革新を描く線と言葉の美 少女漫画の枠を超越、楠本まき展 京都」『毎日新聞』2021年8月11日
<<https://mainichi.jp/articles/20210811/ddf/012/040/006000c>>
 - ・ 「線と言葉・楠本まきの仕事/京都国際マンガミュージアム」『京都新聞』2021年8月4日
<<https://www.kyoto-np.co.jp/articles/-/611754>>

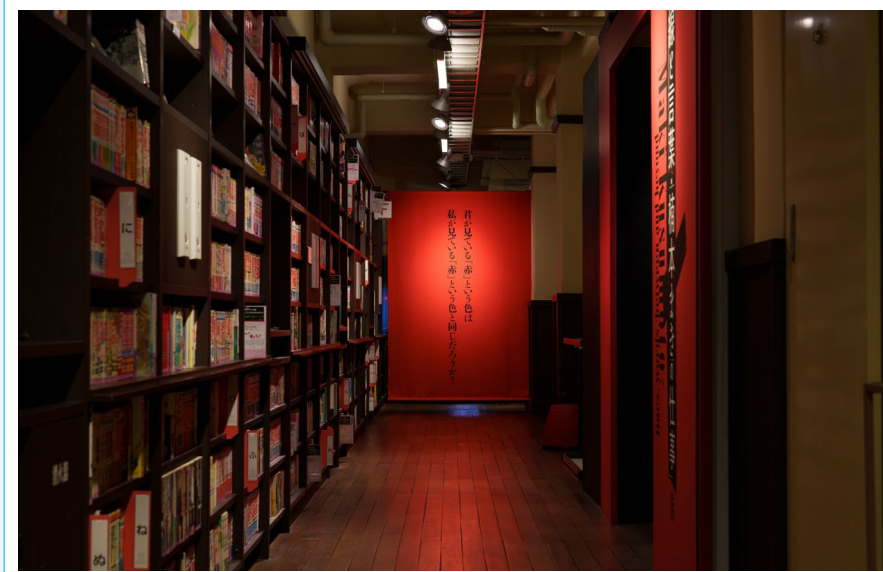
展覧会紹介動画

- ・ 本展の録画記録は、YouTube「京都国際マンガミュージアム」チャンネル
<<https://www.youtube.com/watch?v=wscFWPTpMqU>>で視聴可。
撮影・編集:ディレクターズ・ユニブ

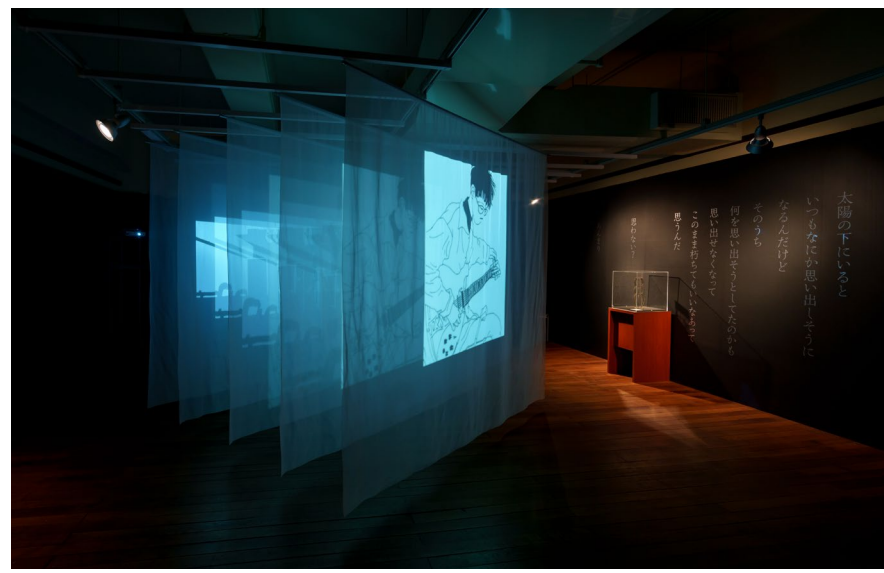


会場風景。

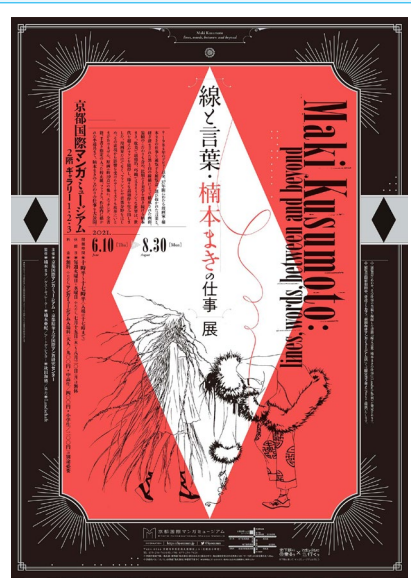
(写真=ディレクターズ・ユニブ)



会場風景。
(写真=ディレクターズ・ユニブ)



ポスター。
(デザイン=秋田和徳)



マンガ・パンデミック Web展2021

基本情報

期間

2021年9月11日[土]–

会場

オンライン展覧会

<<https://www.mangapandemic.jp>>

主催

マンガ・パンデミックWeb展2021実行委員会

(安齋科学・平和研究所 /

立命館国際平和ミュージアム /

京都精華大学国際マンガ研究センター /

京都国際マンガミュージアム)

展示アドバイザー

しりあがり寿/安齋肇

担当

吉村和真/伊藤遊

ウェブサイト制作

下元善光 (EIGHTY ONE Inc.)

ロゴデザイン

安齋肇/坂本志保

イラスト

しりあがり寿

実施概要 ヴァーチャル空間で「平和を展示する」ことを目的に、「パンデミック」をテーマにした作品を公募、展示した「オンライン展覧会」の第2弾。前年の応募者数である1041作品(公募期間=2020年9月11日–11月30日)を上回る形で、49ヶ国・地域(不明含む)の193組から、1176作品が集まった(公募期間=7月23日–10月31日)。●今回は、延期となっていた東京オリンピック・パラリンピックの開催日に合わせ、応募時期を前年よりも前倒しにした。コロナ禍下での国際イベントの開催に対し、国内世論も二分する、重要な関心事のようにみえたからである。しかしながら、パンデミックを五輪と結びつけるような作品はほとんどなく、特に海外からの作品は、具体的な出来事や体験をテーマにするのではなく、より抽象化された表現になっているものが多かった。 [文責=イトウユウ]

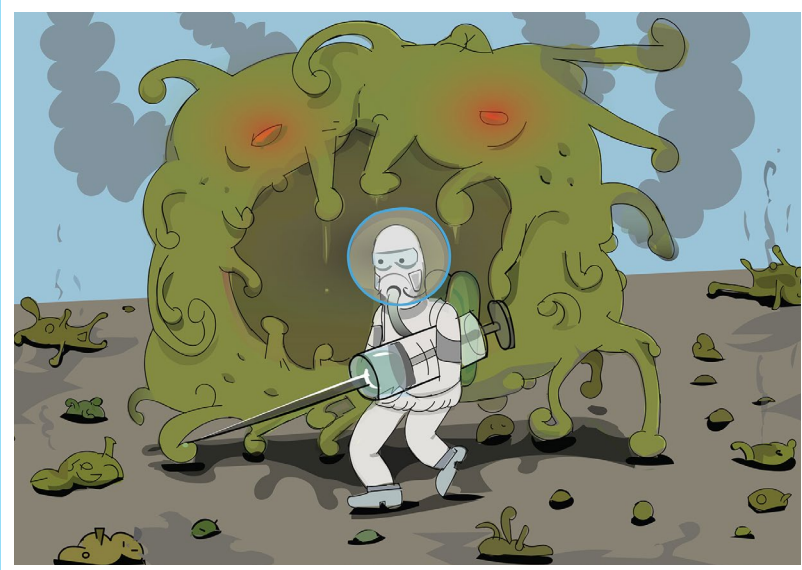
応募者の国・地域と作品数・参加組数

国・地域	作品数	参加組数	国・地域	作品数	参加組数
アメリカ合衆国	2	2	チェコ共和国	5	1
アルゼンチン共和国	6	2	中華人民共和国	82	24
イタリア共和国	7	2	中華人民共和国	7	2
イラク共和国	16	3	(内モンゴル自治区)		
イラン・イスラム共和国	326	55	ドイツ連邦共和国	12	2
インドネシア共和国	36	8	トルコ共和国	65	30
インド共和国	47	13	日本	123	106
ウクライナ	43	11	ニュージーランド	21	1
ウズベキスタン共和国	10	1	ノルウェー王国	3	1
エジプト・アラブ共和国	32	6	フィリピン共和国	1	1
エストニア共和国	4	2	ブラジル連邦共和国	11	2
オーストラリア	4	2	フランス共和国	10	2
オランダ王国	1	1	ブルガリア共和国	30	4
北マケドニア共和国	22	3	ベルギー共和国	4	1
キューバ共和国	22	5	ベルギー王国	2	1
ギリシャ共和国	9	2	ポーランド共和国	24	8
クルド自治区	3	1	ポルトガル共和国	5	1
クロアチア共和国	8	2	マレーシア	1	1
コンゴ共和国	4	1	ミャンマー連邦共和国	12	3
サウジアラビア王国	8	1	メキシコ合衆国	1	1
シリア・アラブ共和国	2	1	モロッコ王国	2	1
スペイン	1	1	モンテネグロ	8	2
セルビア共和国	25	3	ルーマニア	19	1
大韓民国	2	2	ロシア	78	42
台湾	1	1	不明	6	1

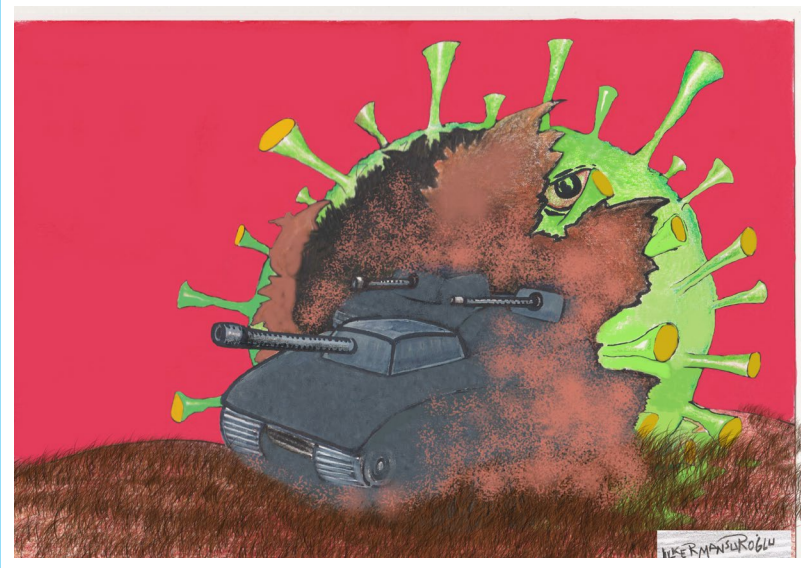
報道

- ・「コロナで変化の世界 漫画に」『京都新聞』2021年8月25日
- ・「コロナ禍と漫画」『中日新聞』2021年10月1日夕刊
- ・「マンガで切り取るコロナ」『読売新聞』2021年10月14日夕刊
- ・「コロナを題材にしたオンライン展覧会 マンガ・パンデミックWeb展2021開催」『立命館大学新聞』2021年10月18日

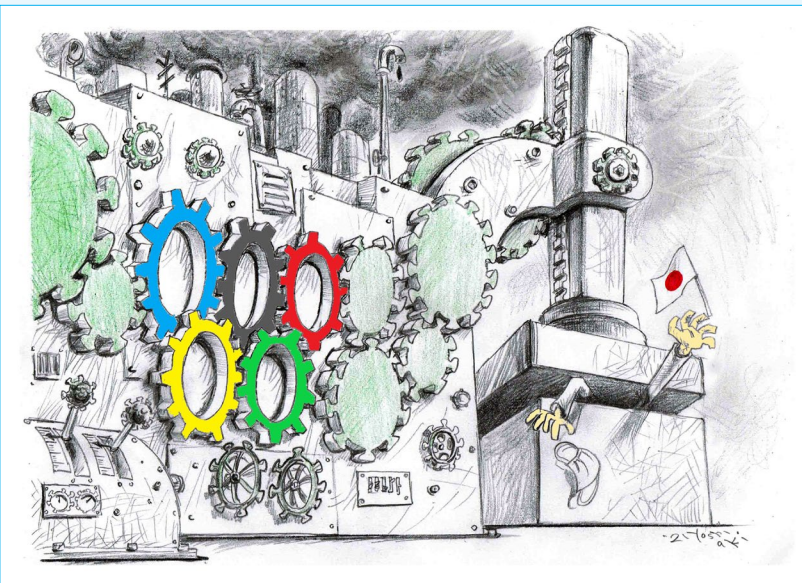
▶ Alicja Wiczorek
「Just Another War」
(ポーランド共和国)
テーマ=ワクチン



▶ Ilker Mansuroglu
「[無題]」
(トルコ共和国)
テーマ=自由部門



▶ 横田吉昭
「[無題]」
(日本)
テーマ=自由部門



▶ Saeed Sadeghi
「Fossil」
(イラン・イスラム共和国)
テーマ=自由部門



▶ 辰巳星空
「コロナになってから
急にモテ始めた奴」
(日本)
テーマ=マスク

コロナになってから急にモテ始めた奴



左
ウェブサイト
トップページの
スクリーンショット画像。
(2021年11月2日時点)
右
ウェブサイト「ギャラリー」
トップページの
スクリーンショット画像。
(2021年11月2日時点)



日独交流 160周年イベント オンラインマンガ大会 ドイツ 深掘りマンガ大賞

基本情報

マンガコンペ
募集期間
2021年8月1日[日]–2021年10月14日[木]
審査員
マルティン・エンバーツ(ドイツ連邦共和国総領事)/
吉村和真(京都精華大学マンガ学部教授)/
さそうあきら(マンガ家)/クリスティーナ・ブラカ
(マンガスクール「I am Mangaka」代表、マンガ家)/
エンツォ・ヴェツェル(ゲーテ・インスティトゥート
大阪・京都館長)

オンライン展覧会
期間
2021年10月18日[月]–2022年12月31日[土]
会場
オンライン展覧会(https://doitsufukabor.jp)
主催
大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館
共催
京都精華大学国際マンガ研究センター/
京都国際マンガミュージアム/
ゲーテ・インスティトゥート大阪・京都
特設ウェブサイト制作
浅井康
メインビジュアルイラスト
具本媛
担当
具本媛

関連事業
ドイツ深掘りマンガワークショップ

期間
2021年9月25日13:00–14:30/
15:00–16:30 (マンガミュージアム)
2021年10月8日16:30–18:30
(京都精華大学)
会場
京都国際マンガミュージアム/京都精華大学
講師
具本媛
主催
京都精華大学
協力
ドイツ総領事館/
京都精華大学グローバル推進グループ/
京都国際マンガミュージアム
参加者を募るための
マンガワークショップを実施した。

実施概要 日独交流160周年を記念し、オンラインマンガ大会を開催。マンガからイラストまで、現代ドイツをテーマに幅広く作品を募集し、主催者とマンガ専門家の審査の結果、優秀作品を選定し表彰した。作品募集は特設サイトにて行われた62点の応募作品の中から金賞1名、銀賞2名、銅賞3名が受賞した。応募作は、特設サイトにてオンライン展覧会として展示し、すべての応募作を収録した図録も制作した。 [文責=具本媛]

- 受賞作品**
- 金賞**
 - 遊戯万千亜「Waltraud und Orrun」
 - 銀賞**
 - アカリ(Akari)「吾輩とムルである!— Ich und Kater Murr」
 - のぎきしょーいち「4コマファンアートグリム童話集」
 - 銅賞**
 - Makoto「ドイツふれあい旅」
 - 素「国花」
 - ドニエストル結城「今、踏み出すわたしたちへ」

- 関連記事**
- 「交流160周年記念事業 現代のドイツ描いて「深掘りマンガ大賞」開催」『毎日新聞』(京都版) 2021年8月10日
ウェブページ(https://mainichi.jp/articles/20210810/ddl/k26/040/213000c)でも閲覧可
 - 「日独交流160周年記念 深掘りマンガ大賞 金賞に遊戯さん 多様なテーマ、6作品が入賞」『毎日新聞』(京都版) 2022年1月13日
ウェブページ(https://mainichi.jp/articles/20220113/ddl/k26/040/232000c)でも閲覧可



▶ 特設ウェブサイトより。



▶ 素「国花」。



▶ 京都国際
マンガミュージアムでの
ワークショップの様子。



第2章 イベント

第2部 展示・イベント等事業レポート

忠津陽子× 竹宮恵子 オンライン トークショー

京都国際マンガミュージアムのギャラリー 1・2・3で開催された企画展「竹宮恵子監修 原画(ダッシュ)展示シリーズ『もうひとつの原画』展～東浦美津夫・飛鳥幸子・さやななえこ・忠津陽子～」の関連イベント。本展の出演作家の一人である忠津陽子と原画(ダッシュ)プロジェクトの監修者・竹宮恵子がオンライントークショーに出演した。●同世代で、同じく1967年にマンガ家としてデビューした二人の活躍や近況などについて語ってもらった。イベントでは新型コロナウイルス感染症の拡大により来場することができなかった忠津陽子とファンのために、展覧会の風景を撮った写真も見せながら本人の感想を聞いた。事前に録画されたトークショーの映像はYouTubeにアップロードされ、多くの人の目に触れた。

[文責=ユースギョン]

基本情報

日時
2021年2月14日[日]から映像公開

出演者
忠津陽子(マンガ家)/竹宮恵子(マンガ家)/
ユースギョン[司会]

主催
京都国際マンガミュージアム/
京都精華大学国際マンガ研究センター

協力
トランクライザープロダクト

担当
ユースギョン

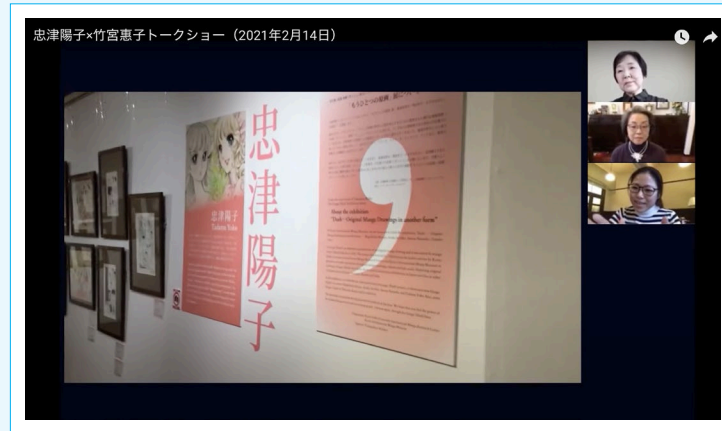
録画記録

本イベントの録画記録は、
YouTube「京都国際マンガミュージアム」
チャンネル(<https://www.youtube.com/watch?v=gk0u-8t3Rpw&t=99s>)で視聴可。

ヘッダー画像



オンライントークの様子



飛鳥幸子× 竹宮恵子 オンライン トークショー

実施概要 京都国際マンガミュージアムのギャラリー 1・2・3で開催された企画展「竹宮恵子監修 原画(ダッシュ)展示シリーズ『もうひとつの原画』展～東浦美津夫・飛鳥幸子・さやななえこ・忠津陽子～」の関連イベント。本展の出演作家の一人である飛鳥幸子と原画(ダッシュ)プロジェクトの監修者・竹宮恵子がオンライントークショーに出演した。●同世代の二人の作品制作や意外な接点、最近の活躍、原画(ダッシュ)制作や展覧会の話など、幅広い話題に触れた。出演者の飛鳥幸子は、「怪盗こうもり男爵」など、時代に先駆けたウィットに富んだスタイルの作品で読者の熱い支持を得たが、1980年代からはイラストレーターへ転向し、それ以降イベントに出演することは極めて少なかったため、極めて貴重な話が聞ける機会となった。

[文責=ユースギョン]

基本情報

日時
2021年3月14日[日] 14:00-16:30

出演者
飛鳥幸子(マンガ家、イラストレーター)/
竹宮恵子(マンガ家)/ユースギョン[司会]

主催
京都国際マンガミュージアム/
京都精華大学国際マンガ研究センター

協力
トランクライザープロダクト

担当
ユースギョン

録画記録

本イベントの録画記録は、
YouTube「京都国際マンガミュージアム」
チャンネル(<https://www.youtube.com/watch?v=JKTfbOpUhg&t=22s>)で視聴可。

ヘッダー画像



オンライントークの様子



オンライン シンポジウム マンガ研究家・ 清水勲を 受け継ぐ

基本情報

日時
2021年4月24日[土] 13:00-16:30
出演者
〈第1部〉 宮本大人[明治大学国際日本学部教授]/ 新美琢真[川崎市市民ミュージアム 漫画担当学芸員]/ 吉村和真[京都精華大学マンガ学部教授/司会]
〈第2部〉 表智之[北九州市漫画ミュージアム専門研究員]/ 吉村和真/ イトウユウ[IMRC特任准教授/司会]
主催
京都精華大学国際マンガ研究センター/ 京都国際マンガミュージアム
担当
吉村和真/イトウユウ

実施概要 京都国際マンガミュージアムが所蔵する30万点のマンガ資料のうち、コア資料として位置づけられている江戸期の戯画浮世絵や明治・大正・昭和初期のマンガ雑誌等を収集し、それらをもとにした研究で、日本のマンガ史研究の礎を築いたと言っても過言ではない清水勲氏が、2021年3月2日、81歳で亡くなった。マンガミュージアム/IMRCの研究顧問でもあった清水の業績を検証し、受け継ぐことを目的とし、オンラインイベントが開催された。●第1部では、まず、マンガ史研究者である宮本大人が、「清水勲の謎」と題して、清水の仕事をマンガ研究史の中に位置付けつつ、その独特の史観の特徴や可能性、問題点などを分析した。続いて、川崎市市民ミュージアムで学芸員を務める新美琢真が、「清水勲 もう一つの仕事〜漫画史の保存と継承〜」と題し、清水が開館当初から関わった同館のマンガ資料コレクションの構築と公開について、同館に遺された記録等を紐解きながら紹介した。●第2部では、清水同様に、開館前から研究員として京都国際マンガミュージアムの黎明期を支えた、北九州市漫画ミュージアムの表智之も加わり、出演者全員で、第1部における発表を元にした議論や、清水の思い出話などが展開された。

[文責=イトウユウ]

報道

- ・「清水勲さんの功績回顧」『京都新聞』2021年4月26日

メカデミア 国際学術会議 2021 「Ecologies」

実施概要 2006年に誕生したアメリカの国際学術ジャーナル『メカデミア』。京都精華大学国際マンガ研究センターでは、2018年から2年に1回、メカデミアとの共催で国際学術会議を開いている。「Ecologies」というテーマのもと、当初2020年の開催を目指していたが、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)蔓延のため1年延期され、2021年にオンラインで開催されることになった。2日間の開催期間中、北アメリカ、南アメリカ、アジア、ヨーロッパなど、世界中から参加した73人の研究者による発表と熱い議論が行われた。●テーマの「Ecologies」は、「環境的」という意味だけでなく、ここでは、「メディアエコロジー」や「メディア生態学」をも指す言葉として使われている。このテーマにふさわしく、マンガ、アニメ、ゲームなど、幅広い分野が研究発表の対象となった。●シカゴ大学教授、アニメ研究者のトーマス・ラマール氏は、「メディアエコロジー テレビとアニメーション」という題で基調講演を行い、1997年に日本で発生した「ポケモンショック」事件をメディア研究の観点から語った。また、もう一人のキーノートスピーカー・天神英貴氏により、アニメ業界のメカニックデザインやマーケティングの話などが実体験を交えて紹介された。●本会議は、これまでのメカデミア国際学術会議史上、最大規模となった。参加者が発表を見られる十分な時間を確保できるよう、大会の2週間前から研究発表の動画がオンラインで公開され、開催当日はリアルタイムで質疑応答を行う形をとった。そうしたことで、参加者の満足度も非常に高く、良質な議論を交わすこともできた。内容、形式ともに、今後の学術イベントを考える上で参考となる一つの例になったと言える。

[文責=ユースギョン]

基本情報

日時
2021年6月5日[土] 20:00-25:00/ 6日[日] 20:00-25:00
会場
オンライン
主催
メカデミア(MECHADEMIA)/ 京都精華大学国際マンガ研究センター
キーノートスピーカー
トーマス・ラマール(シカゴ大学教授、アニメ研究者)/ 天神英貴(イラストレーター、メカニックデザイナー)
告知ページイラスト
宮下一真
担当
ユースギョン

関連記事

- ・ ユー・スギョン[『ポケモンショック』に新たな分析 変化するメディアとの関係性] 『朝日新聞』2021年7月2日
ウェブページ<<https://book.asahi.com/article/14380135>>でも閲覧可
- ・ スティービー・スアン「メカデミア国際学術会議2021『Ecologies』レポート」 『メディア芸術カレントコンテンツ』2021年11月8日更新
<<https://mediag.bunka.go.jp/article/article-18433/>>

▶
6月5日[土]の
プログラム。

JST	ROOM	Program
20:00–20:45		Q&A Time
	ROOM A	Panel 1 Imaginary Landscapes: Ecology in All its Forms Commentator: Stevie Suan <ul style="list-style-type: none"> Eco-Anime Movies and Satoyama Environmental Movements Timo Thelen Ecologies of Memory and Disaster in Shinkai Makoto's Kimi no Na wa Shelby Oxenford
	ROOM B	Panel 2 Soundscapes Commentator: Stacey Jocoy <ul style="list-style-type: none"> Mapping Music, Space and Identity in the Anime Legend of Galactic Heroes Rose Bridges The Way Home: Dvořák's New World Symphony in Animated Visions of the Japanese Furusato Heike Hoffer Natsukashii: Celtic Echoes from a Past that Never Was Stacey Jocoy
	ROOM C	Panel 3 Hybridity and Ecologies: Fandom and Transnational Connections Commentator: Daniel E. Josephy Hernández <ul style="list-style-type: none"> Dance to the Plastic Beat: The International Fandom of City Pop Music Online and the Nostalgic Sehnsucht for Late Showa Japan. Rhea Vichor Translation and Fandom: A Historical and Geographic Overview of Fansubbing Daniel E. Josephy Hernández
	ROOM D	Panel 4 Gaming Spaces: Industry, Locality, and Mobility Commentator: Bryan Hikari Hartzheim <ul style="list-style-type: none"> Pilot Disk: Anime and the Adventure Game in Early 1990s Japan Bryan Hikari Hartzheim Navigating Local Spaces through WiFi: The Case of the Nintendo DS and Digital Game Distribution Forrest Greenwood
20:45–21:00		Break
21:00–21:45		Q&A Time
	ROOM A	Panel 5 (Re) Constitutions: Interrogating Ecology and Selfhood Commentator: Stevie Suan <ul style="list-style-type: none"> Realism and Phenopower in Live-Action Remakes of Anime Sandra Annett Beyond destruction or renewal: The positioning of human environmental responsibility in Mushishi and the works of Shinkai Mokoto Laura Clark Objecthood at the End of the World: The Ecological Politics of Performing Selfhood in Neon Genesis Evangelion Stevie Suan
	ROOM B	Panel 6 Speaking Up: Otaku, Bullying, and Dystopias Commentator: Wendy Goldberg <ul style="list-style-type: none"> Anime, manga, and school bullying: From being the messaged to the messengers Akihiko Ieshima, Yi-Shan Tsai, and (Brent Allison) How to Speak like an Otaku: Otaku Identity through the Lens of Self-Referentiality, Commodity, and Art Gabrielle Dulys Dystopia in Modern Japanese Culture From the Viewpoint of Russian Audience Olga Ilina
	ROOM C	Panel 7 Borderlands: Transnational Flows of Media Commentator: Edmund Hoff <ul style="list-style-type: none"> Releasing Masculinity for a Peaceful World—Lessons from Hong Kong as a Borderland Charlie Yi Zhang Kaiju no hosomichi: Cultural Topographies and Global Fandoms of Kaiju Eiga Joyce E. Boss
	ROOM D	Panel 8 Transporting Yuri Across Borders Commentator: Erica Friedman <ul style="list-style-type: none"> No Place for Lilies? Yuri's Rocky Road to Germany Verena Maser Love Online—Global Yuri Fandom Speaks For Itself Erica Friedman The Yuri Genre in Its Transnational Permutations James Welker
21:45–22:00		Break

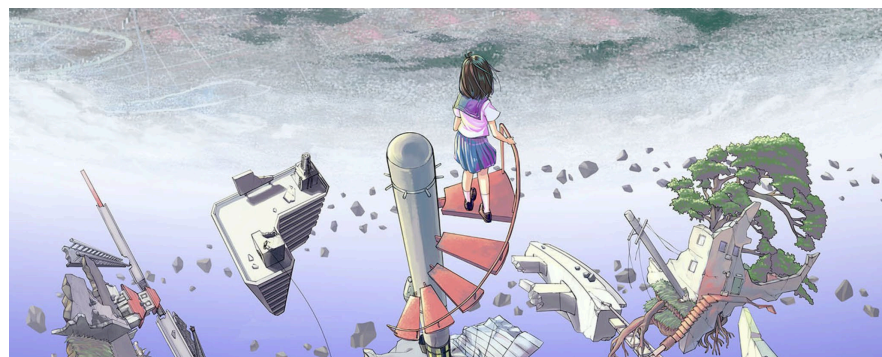
JST	ROOM	Program
22:00–22:45		Q&A Time
	ROOM A	Panel 9 Creating Form, Using Form: Multidirectional relationships and expression in popular culture Commentator: Olga Kopylova <ul style="list-style-type: none"> Manga as an interactive media: Communication through “lines” Miho Takeuchi Narita Tohl's work and the reality in tokusatsu films Masashi Sakaguchi Changing faces, lingering traces: The consistency of visual style in the media mix Olga Kopylova
	ROOM B	Panel 10 On the Monstrous, Apocalyptic, and Ecological Commentator: Sandra Annett <ul style="list-style-type: none"> The Inverted Forest: Chthonic ecopolitics in Miyazaki Hayao's Nausicaä of the Valley of the Wind Ivo Louro and Ana Matilde de Sousa Stealing the Sun: Where is the ecological imagination in nuclear films? Jeffery DuBois
	ROOM C	Panel 11 Fan Spaces and Practices Commentator: Brett Hack <ul style="list-style-type: none"> French Anime Fandom and Hentai Abstract Aurélie Petit Neo Yokio and the Anime Fan-Oriented Work on Popular Streaming Platforms Victoria Berndt
	ROOM D	Panel 12 Lineages: Production and Relations Across History Commentator: Marie Pruvost-Delaspre <ul style="list-style-type: none"> A Boy and His Robot, A Family Tree Wendy Goldberg An ecology of the studio as workplace: on animators training at Tōei Dōga Marie Pruvost-Delaspre
22:45–23:00		Break
23:00–23:45		Q&A Time
	ROOM A	Panel 13 Exhibitions: Fandom, Professional Practices, and Ecological Concerns Commentator: Kayo Onozuka <ul style="list-style-type: none"> Cartoons representing ecology and environmental themes—activities from Kyoto— Kayo Onozuka The Journey of Fan Art: From Comic Con to gallery walls, inspiration and original creations Herb L. Fondevilla
	ROOM B	Panel 14 Attending to the Local, Exploring Potentials Commentator: Edmund Hoff <ul style="list-style-type: none"> The One Thousand Faces of No-Face: Kaonashi's Affective Reception in México City Julieta de Icaza Lizaola
	ROOM C	Panel 15 Fan Practices and Transmedia Ecosystems around Japanese Videogames Commentator: Martin Picard <ul style="list-style-type: none"> Gamification. Historical Characters in the Japanese Musō Game Sengoku BASARA Martin Picard and Martin Roth Bishōjo/Bishōnen-Centered Ecologies: Dis-entangling the Familiar and Familial Luca Paolo Bruno Dōjin Games in Japan: Recent Developments and Future Potentialities Mikhail Fiadotau From Parody to Shared Language: A Study of Lexicalization Processes in Twitch Plays Pokémon Fanny Barnabé
23:45–24:00		Break
24:00–25:00		Keynote 1: Thomas Lamarre “Media Ecology: Television and Animation.”

▶
6月6日[日]の
プログラム。

JST	ROOM	Program
20:00-21:00		Keynote 2: Tenjin Hidetaka “Mecha and Voices in Fantasy Worlds”
21:00-21:15		Break
21:15-22:00		Q&A Time
	ROOM A	Panel 16 Toying Around with Technical Objects: Materiality and Media Mix Commentator: Frenchy Lunning <ul style="list-style-type: none"> Interlinking Technical Objects: Media Mix as a milieu for meaning-producing. Alba G. Torrents Transforming G.I. Joe Kerim Dogruel
	ROOM B	Panel 17 Ecologies of Heroes: Representations and Transnationality Commentator: Edmund Hoff <ul style="list-style-type: none"> Mighty Morphin' Childhood Sophia Staite
	ROOM C	Panel 18 Media Across Nations Commentator: Stevie Suan <ul style="list-style-type: none"> Anime Digests the Nation: Media Ecologies, Media Environments, and Imagined Communities Brett Hack Anime me: self-fictionalizing practices in South Korea Chloe Paberz Constructing and Interpreting Chineseness in Shaonu Manhua: Globalization, the Nation-state and the Market Ying Huang
	ROOM D	Panel 19 Insterstices: Sound, Body, and Characters Commentator: Sandra Annett <ul style="list-style-type: none"> A roadmap to the perfect cosplay body: an adventure in crossdressing and hyper-femininity/masculinity Emerald L. King Impureness and the Mediated Body: Theorizing Audio-visuality of the Idol Eri Kajikawa Idols and Hentai—The ecology of the erotic shōjo image in shōnen and young manga magazines Mia Lewis
22:00-22:15		Break
22:15-23:00		Q&A Time
	ROOM A	Panel 20 Media Mix, Media Ecosystems, Platform Capitalism Commentator: Susana Tosca <ul style="list-style-type: none"> Gundam and the birth of the Real Robot Media Ecology Akinori (Aki) Nakamura and Susana Tosca From Artifact to Auto Chess: Dota 2's Meta Media Mix Stephanie Boluk and Patrick LeMieux
	ROOM B	Panel 21 Emerging Queer Spaces: BL and Transnational Connections Commentator: James Welker <ul style="list-style-type: none"> The Phenology of Radical Emergence: Dormancy and Regeneration of Queer Utopias in Japan/Euro-American Relations Deirdre Clyde
	ROOM C	Panel 22 Consuming the World: Reading Ecocriticism Commentator: Wendy Goldberg <ul style="list-style-type: none"> The Floating Dakimakura: Notes on a found photography Ana Matilde de Sousa Vegetarianism and its Discontents Sona Srivastava
	ROOM D	Panel 23 The Data Frontier: Potentials, Problems, Communities Commentator: Martin Roth <ul style="list-style-type: none"> Mapping Japanese visual media: Collaborating with enthusiast communities to open new research paths Martin Roth, Magnus Pfeffer, Luca Bruno, Senan Kiryakos and Zoltan Kacsuk MyAnimeList: A Model for the Western Anime Fandom Allison C.E. Bidulock
23:00-23:15		Break

JST	ROOM	Program
23:15-24:00		Q&A Time
	ROOM A	Panel 24 Realism, Potentiality, and Game-ic Logic in Animation Commentator: Christopher Smith <ul style="list-style-type: none"> Is This All Just a Game to You?: The Privileging of Fan Subjectivity in Game-Logic Anime Christopher Smith Harboring Unpredictability in Digitalized Anime Worlds Selen Calik Bedir Animated (un)realism in the digital age Angela Longo
	ROOM B	Panel 25 Identity and Image in a Global Context Commentator: Frenchy Lunning <ul style="list-style-type: none"> Nikkei Otaku: Brazilian-Japanese and Anime Contents in Social Integration Edmund Hoff Black Mangaesque: Ambiguity and Absence in Japanese Visual Culture Omar Yusef Baker
	ROOM C	Panel 26 Aesthetics of Proximity in Japanese contemporary visual / literary culture Commentator: Christophe Thouny <ul style="list-style-type: none"> Return to the Burning South: Faulkner, Murakami and Lee Christophe Thouny Desire, sexual expression, and the 'absent' body in Japanese streaming audio porn Lucy Glasspool Dreams Bloom of Shōjo Dolls: Floral Femininity and the association of nature/human in Kawahara Yumiko's Dollsx Masafumi Monden
	ROOM D	Panel 27 Manga's Materiality: Digitalization, Ideological and Formal Concerns Commentator: Deborah Shamoon <ul style="list-style-type: none"> Jidaigeiki and the Ecology of Cinematic Technique in Manga Deborah Shamoon Production innovations. Formal transformations: Manga's Digital Evolution Through the Case of One Punch-Man José Andrés Santiago Iglesias Paper manga—Reconsider manga from its materiality Julien Bouvard Javascript Ghosts: The Bongcheon-Dong Ghost and Uncanny Webtoons Cole Armitage
24:00-24:15		Break
24:15-25:00		Q&A Time
	ROOM A	Panel 28 Sounds of Ecology: Nature and Music in Anime Commentator: Stacey Jocoy <ul style="list-style-type: none"> Sound Ecologies, Nature Mapping and Death: How the Ecology of Sound Communicates Nature to Readers of Manga Kay Clopton Forest of Piano: Navigating Japanese Musicianship on the World Stage Ruth Barratt-Peacock
	ROOM B	Panel 29 Historical Perspectives in Conceptualizing Media Ecology Commentator: Andrea Horbinski <ul style="list-style-type: none"> The Emergence of Media-Ecological Thought: Japan's Long Media Century Alexander Zahlten Mapping a popular history of magic-lanterns and kamishibai within an ecology of omocha-e (play prints) Tara M. McGowan Out of the Labyrinth: Comiket and the Manga Fandom Ecology, 1967-80 Andrea Horbinski
	ROOM C	Panel 30 Ecological Hibakusha on Film—Nuclear Power and the Disruption of Life Commentator: Jeffery DuBois <ul style="list-style-type: none"> Somewhere to Call Home: comparison of This Corner of the World and Barefoot Gen James Moua The Environmental and Societal Consequences of Nuclear Energy in Japan: the Documentary Films of Kamanaka Hitomi Elise Bearrood A Mere Cherry Blossom: Terror and Beauty in This Corner of the World and The Tsunami and the Cherry Blossom Zong Xiong The Ecological Hibakusha in the documentaries Ashes to Honey and Radioactive Wolves Alexei Hensel
25:00		End

メカデミアウェブページ。



Mechademia Conferences on Asian Popular Cultures
"Ecologies"

The Ecologies conference that was scheduled to take place in
Kyoto in May 2020 will take place virtually on **June 5-6 2021**.

オンライン イベント 「楠本まき トークショー」

基本情報

日時

2021年8月16日[月] 19:00-20:30

出演者

楠本まき(マンガ家)/ユースギョン[司会]

視聴人数

300名

主催

京都国際マンガミュージアム/
京都精華大学国際マンガ研究センター

担当

ユースギョン

実施概要 京都国際マンガミュージアムのギャラリー 1・2・3で開催された企画展「線と言葉・楠本まきの仕事」の連動イベント。新型コロナウイルス感染症によるパンデミックの最中、本展の監修者・楠本まきはイギリス在住のため日本に来ることができず、オンラインでイベントを行った。●本イベントでは、展示準備や展示チェックをリモートで行った話を含め、会場の映像や写真を交えながら、本展の見どころや展覧会制作裏話、作品や作品の制作秘話などを監修者ご本人から伺った。展覧会の開催期間が緊急事態宣言とも重なっていたため、会場を訪れることができなかった人々にとっても、展覧会の風景が見られる機会となった。有料のイベントだったのにも関わらず、300人以上の申し込みがあり、大きな反響を呼んだ。

[文責=ユースギョン]

オンライン トークショー 「タンタンと スマーフの国、 コミック強国・ ベルギーの 若手作家たち」

基本情報

日時

2021年11月10日[水]/11月20日[土]/
11月27日[土]/12月1日[水]/12月15日[水]
各回18:00-

出演者

オレリー・ウィリアム・ルヴォー
Aurélie William Levaux/
ティエリ・ヴァン・ハッセルト
Thierry Van Hasselt/
ディミトリ・ピオ
Dimitri Piot/
トマ・マチュー & ジュリエット・ブタン
Thomas Mathieu & Juliette Boutant/
バプティスト・ヴィロー (アニマル・プレス出版社)
Baptiste Virost (Animal Press)/
ハン・ジンヒ (アニマル・プレス出版社)
Jinhee Han/
ユースギョン [司会]

主催

ベルギー王国フランス語共同体政府
国際交流振興庁(WBI)/
京都精華大学国際マンガ研究センター

担当

ユースギョン

実施概要 京都精華大学国際マンガ研究センターと、京都精華大学キャンパスに学術文化連絡事務所を持つベルギー王国フランス語共同体政府国際交流振興庁(WBI)が共同主催するオンラインイベントシリーズ。日本人読者にも愛されてきた「タンタンの冒険」や「スマーフ」などをはじめ、多様なコミック作品を生み出してきたコミック強国・ベルギー在住の若手アーティストを紹介すべく、2021年11月から12月にかけて、5回にわたってトークショーが開催された。●イベントはベルギーで撮影されたアーティストたちのインタビュー映像を京都精華大学のホームページにて公開し、それを見た参加者から事前に質問を集め、リアルタイムのオンラインイベントで直接話を伺う形で進められた。●日本の伝統芸術技法を作品に生かしている作家や、刺繍など、珍しい技法でコミックを生み出す作家など、マンガ・コミックの境界線を超え、素材から表現方法、印刷に至るまで、新しい表現に挑戦し続ける作家たちの話は、イベントに参加した学生を含め、あらゆる表現者の刺激になった。

[文責=ユースギョン]

ジャック・ フェランデズ× 車戸亮太 オンライン トークショー 「カミュ、 マンガになる」

基本情報

日時

2021年11月13日[土] 18:00-19:30

出演者

ジャック・フェランデズ(バンドデシネ作家)/
車戸亮太(マンガ家)/ユースギョン[司会]

主催

アンスティチュ・フランセ日本/
北九州市漫画ミュージアム/
京都国際マンガミュージアム/
京都精華大学国際マンガ研究センター

協力

笹川日仏財団/GALLIMARD/
彩流社/新潮社

チラシデザイン

上岡杏子

担当

ユースギョン

チラシ



国内外での 展示等 協力事業

国内における協力事業

- **「GIGA-MANGA 江戸戯画から近代漫画へ」**
江戸期の錦絵から戦中のマンガ雑誌までのIMRC/マンガミュージアム所蔵資料約400点を紹介する形で制作された「江戸からたどる大マンガ史展～鳥羽絵・ボンチ・漫画～」(於・京都国際マンガミュージアム、2015年11月14日～2016年2月7日、清水勲・監修)を元にした展覧会に、東北歴史博物館展、北九州市博物館展、すみだ北斎美術館展に引き続き、内容監修等で協力した。

—

期間 2021年10月1日[金]～12月19日[日]
会場 神戸ゆかりの美術館
主催 神戸ゆかりの美術館/神戸新聞社/毎日新聞社
後援 サンテレビジョン/ラジオ関西
協力 京都精華大学国際マンガ研究センター/京都国際マンガミュージアム
- **「ギガタウン展 ギガタウン・フロム・テラタウン」展**
マンガ独特の表現記号=「漫符」がテーマのこの史代によるマンガ作品「ギガタウン 漫符図譜」を紹介する企画展として、2018年に京都国際マンガミュージアムで開催され、その後、横山隆一記念まんが館にも巡回した展覧会。オリジナル展同様、展覧会は2部構成で、第1部では、同作でも紹介されている10の漫符を取り上げ、それらの歴史や古今東西の使用例を紹介するなど詳しく解説した。第2部では、ネームや下描きを含む「ギガタウン」の原画100点以上を一堂に集めた。

—

期間 2021年10月1日[金]～12月19日[日]
会場 湯前まんが美術館
主催 湯前まんが美術館
協力 朝日新聞出版/京都国際マンガミュージアム/京都精華大学国際マンガ研究センター
- **「男子におわす」展**
|詳細は別掲

海外における協力事業

- **「SPORT×MANGA」展**
東京2020オリンピック・パラリンピックに合わせて企画された、スイス・ローザンヌの「オリンピック・ミュージアム」における、日本のスポーツマンガを紹介する企画展。資料提供やIMRCメンバーによる監修などの形で協力した。同展のプレ展示と言える、「パナソニック東京」における同名展(2019年7月13日～9月29日)でも、展示画像の選定などを行った。

—

期間 2021年3月18日[木]～11月21日[日]
会場 オリンピック・ミュージアム[スイス・ローザンヌ]

文化庁 メディア芸術 連携基盤等 整備推進事業

実施概要 2010年度から始まった「メディア芸術情報拠点・コンソーシアム構築事業」以来、マンガ資料(刊本および原画)のアーカイブ——〈収集〉〈整理・保存〉〈活用〉——を実践し、その発展のための体制を推進するネットワークの構築とハブとなる拠点の確立を目的とする文化庁事業の中心的な役割を、IMRCが担い続けている。第3フェーズと言える「メディア芸術連携基盤等整備推進事業」の2年目の事業として、以下の2つの事業が実施された。

事業一覧

- **「マンガ刊本アーカイブセンターの実装と所蔵館ネットワークに関する調査研究」**

—

実施事業

 - 刊本センターの実装化に向けた調査研究
 - 所蔵館ネットワークの構築
 - 刊本プールの有意性に関する検討
 - 「マンガアーカイブ協会」の開催

—

連携機関・団体

 - 熊本大学(事業者)
 - 明治大学/米沢嘉博記念図書館
 - 京都精華大学/京都国際マンガミュージアム
 - 北九州市漫画ミュージアム
 - 高知まんがBASE
 - NPO法人熊本マンガミュージアムプロジェクト/合志市マンガミュージアム
- **「マンガ原画アーカイブセンターの実装と所蔵館連携ネットワークの構築に向けた調査研究」**

—

実施事業

「横手市増田まんが美術館」内に設置されている「マンガ原画アーカイブセンター (MGAC)」の実装と所蔵館連携に向け、調査研究以下のような事業が計画され、実施された。

 - 相談窓口の開設
 - 専門人材の育成
 - 収益事業及び支援体制構築の調査
 - 「マンガアーカイブ協会」の開催
 - 「集英社マンガアートヘリテージ(SMAH)」との連携による原画保存に関する共同研究の着手

—

連携機関・団体

 - 一般財団法人横手市増田まんが美術財団(事業主)
 - 横手市増田まんが美術館
 - 明治大学
 - 京都精華大学/京都国際マンガミュージアム
 - 北九州市漫画ミュージアム
 - 熊本大学
 - NPO法人熊本マンガミュージアムプロジェクト
 - 鳥取県北栄町
 - 石ノ森萬画館
 - 湯前まんが美術館

基本情報

担当
吉村和真(「マンガ刊本アーカイブセンターの実装と所蔵館ネットワークに関する調査研究」および「マンガ原画アーカイブセンターの実装と所蔵館連携ネットワークの構築に向けた調査研究」統括アドバイザー)/伊藤遊(同統括アドバイザー支援)

京都国際マンガミュージアム／IMRC所蔵資料 および画像データ提供一覧（2021年1月－12月）

提供一覧

資料名	データ/現物	提供先	用途
・『週刊マーガレット』1970年第10号(集英社、1970年)表紙 ・『週刊少年サンデー』創刊号(小学館、1959年)表紙 ・『週刊少年マガジン』創刊号(講談社、1959年)表紙 ・『週刊少年サンデー』1964年10月11日号(小学館、1964年)表紙 ・福井英一『イガグリくん天狗山の決戦』(秋田書店、1954年)表紙	画像データ/ 現物	オリンピック・ミュージアム	「SPORT×MANGA」展 (於・オリンピック・ミュージアム、3/18～11/21) における展示
・樺島勝一・画、織田小屋・作『正チャンの冒険』復刻版 (小学館クリエイティブ、2003年)表紙 ・[作者不詳]『珍術甲賀流』(榎本法令館、[発行年不詳])表紙 ・中野晴夫『武蔵と小次郎』(榎本法令館、[発行年不詳])表紙 ・[作者不詳]『透明人間』(榎本書店、1949年)表紙 ・西岡英志『砂漠の宝』(榎本書店、[発行年不詳])表紙	画像データ	Palette	Jean-Samuel Kriegk 『Lart du manga』(Platte、2021年4月) での掲載
・江戸期の戯画錦絵、明治期から戦中までのマンガ雑誌・ 単行本ほか335点	現物	神戸ゆかりの美術館	「GIGA・MANGA江戸戯画から 近代漫画へ」展 (於・すみだ北斎美術館、4/24－7/4) における展示および同展図録での掲載
・『週刊漫画アクション』1971年1月24日増刊号(双葉社、1971年)	現物	小学館	同誌掲載「焼けっぱちのブルース」 (ダディ・グース)の『日本短編漫画傑作集』 第2巻(小学館、2021年6月)での掲載
・歌川国芳「四代目中村歌右衛門、初代中村福助、 三代目関三十郎」	画像データ	笠原信男	笠原信男『明治維新と宮城の芸能』 (河北新報出版センター、2021年8月) での掲載
・[作者不詳]『鋤鋳捨てて』『大阪パック』1917年7月1日号	画像データ	NHKエデュケーションナル	NHKEテレ『アクティブ10 レキデリ』 「普通選挙はなぜ実現した？」 (2021年9月9日放映)での紹介
・竹宮恵子「少年オーギュスト(「風と木の詩」より)原画」(ダッシュ) ・竹宮恵子「薔薇の上に(「風と木の詩」より)原画」(ダッシュ) ・竹宮恵子「KISS・接吻(「風と木の詩」より)原画」(ダッシュ) ・竹宮恵子「青い夕暮れ(「風と木の詩」より)原画」(ダッシュ) ・竹宮恵子「高貴なるもの(「風と木の詩」より)原画」(ダッシュ)	現物	埼玉県立近代美術館	「男子におわす」展 (於・埼玉県立近代美術館、9/23－11/3) における展示および同展図録での掲載
・倉金章介「あんみつ姫」(『少女』1950年5月号)ほか マンガ作品画像データ50点	画像データ	樹村房	こうの史代×竹宮恵子×吉村和真 『マンガノミカタ 創作者と研究者による 新たなアプローチ』(樹村房、2021年10月) での掲載
・竹宮恵子「少年オーギュスト(「風と木の詩」より)原画」(ダッシュ) ・竹宮恵子「薔薇の上に(「風と木の詩」より)原画」(ダッシュ) ・竹宮恵子「KISS・接吻(「風と木の詩」より)原画」(ダッシュ) ・竹宮恵子「青い夕暮れ(「風と木の詩」より)原画」(ダッシュ) ・竹宮恵子「高貴なるもの(「風と木の詩」より)原画」(ダッシュ)	現物	島根県立石見美術館	「男子におわす」展 (於・島根県立石見美術館、11/27－22/1/24) における展示および同展図録での掲載
・小林清親「清親ぼんち 両国えこういん」1881年 ・小林清親「清親ポンチ 東京大芳町」1881年 ・小林清親「清親放痴 東京大川端新大橋」1881年	画像データ	青人社	谷川渥・監修『戯画を楽しむ』 (玄光社、2021年12月)での掲載
・仮名垣魯文、河鍋暁斎『絵新聞日本地』第1号(1874年) 表紙ほか	画像データ	川崎市市民ミュージアム	オンライン展示「漫画の元祖？ 明治ポンチ本とはナニモノだ!？」 (https://www.kawasaki-museum.jp/ thirdarea/comic2112/, 12/23公開) での掲載
・内山亜紀「あんどろトリオ」マンガ原画約800点	現物	稀見理都	内山亜紀『あんどろトリオ 完全復刻版』 (太田出版、2021年12月)での掲載

原画' (ダッシュ) プロジェクト

基本情報

担当
ユースギョン

実施概要 「原画' (ダッシュ)」とは、コンピューターに原画を取り込んで色調整を重ねた上で印刷された、原画と並べても見分けのつかないほど精巧なマンガ原稿の複製である。退色しやすいデリケートなマンガ原稿の保存と公開を両立させるために開発され、マンガ家で京都精華大学元学長の竹宮恵子氏をプロジェクトリーダーに、京都精華大学国際マンガ研究センターと京都国際マンガミュージアムが共同で研究を進めている。●「原画' (ダッシュ)プロジェクトでは、2001年以来、監修者・竹宮氏を含む作家27名の約850点の「原画」を制作してきた。●2021年度の新規原画'制作は新型コロナウイルス禍のため見送られたが、過去に制作した原画'の画像と情報を公開するIMRCのウェブページを大幅に更新した。

国内における原画' (ダッシュ)の活用

●	<p>「男子におわす」展 江戸時代から現代まで、日本の視覚文化のなかの美少年・美青年のイメージ=「美人画」ならぬ「美男画」を紹介する展覧会。 浮世絵・日本画・彫刻・挿絵・マンガ・写真といった幅広いジャンルのメディアが展示され、竹宮恵子の原画' (ダッシュ) 5点も、このプロジェクト自体の解説とともに、紹介された。</p> <p>—</p> <p>《埼玉県立近代美術館展》 2021年9月23日[木]－11月3日[木] 会場 埼玉県立近代美術館 主催 埼玉県立近代美術館</p> <p>—</p> <p>《島根県立石見美術館展》 2021年11月27日[土]－2022年1月24日[月] 会場 島根県立石見美術館展 主催 島根県立石見美術館/しまね文化振興財団/中国新聞社/日本海テレビ</p>
---	--

海外における原画' (ダッシュ)の活用 原画' (ダッシュ)は、破損や紛失したら取り返しがつかない原画に替わって、国内だけでなく、フランス、ドイツ、オーストラリアなど、海外の展覧会にも積極的に出品されてきたが、コロナ禍下の2021年に出展はなかった。

IMRCメンバー業績等

業績一覧

小泉真理子 Koizumi Mariko	論説・コラムなど	<ul style="list-style-type: none"> 著作「第4章 日本アニメの産業としての成長」大場吾郎・編『放送コンテンツの海外展開』中央経済社、2021年8月 コラム「ウェルビーイングと文化政策」飯塚まり・編「同志社大学Well-being研究センター」小冊子、2021年4月
学会発表・講演など		<ul style="list-style-type: none"> 国際会議「Governmental Role for the Development of Japanese Animation,」The 11th International Conference on Cultural Policy Research, Kyoto, Japan. (2021年3月、査読有り) 講演「日本アニメの海外展開とグローバル配信プラットフォーム」『2021年度秋季(第45回)情報通信学会大会研究会報告 コンテンツビジネス研究会「日本のコンテンツとNetflix」』(2021年11月27日、オンライン) 講演「日本アニメの海外展開 ～米国の現地調査を中心に～」『学校法人静岡雙葉学園静岡雙葉高等学校』(2021年10月20日、於・静岡)
社会活動		<ul style="list-style-type: none"> 総務省情報通信政策研究所 特別研究員 同志社大学Well-being研究センター 嘱託研究員 文化経済学会(日本) 学会誌編集委員 情報通信学会学会誌編集委員

伊藤遊 (イトウユウ) Ito Yu	論文	<ul style="list-style-type: none"> 「学習マンガ制作現場のエスノグラフィー 葛藤を調整する「ドラマトゥルク」の必要性」(瀧下彩子/山中千恵との共著)『マンガ研究』vol.27、日本マンガ学会、2021年3月
論説・コラムなど		<ul style="list-style-type: none"> 「少年マンガに多様性を読む」『中日新聞』夕刊2021年2月12日 「『約束のネバーランド』展」『読売新聞』夕刊2021年3月23日 「マンガ展素描2019『複製芸術』を「展示」すること」『マンガ研究』vol.27、日本マンガ学会、2021年3月 「この史代『ギガタウン 漫符図譜』と《鳥獣人物戯画》」『ユリイカ』2021年4月号(「特集 鳥獣戯画の世界」)、青土社、2021年4月 「『医療マンガ展』の試み 京都国際マンガミュージアムの2つの展覧会」一般社団法人日本グラフィック・メディスン協会・編『日本の医療マンガ50年史 マンガの力で日本の医療をわかりやすくする』さいかす、2021年5月 「ウイルスや細菌はマンガの中でどのように表象されてきたか 「学習マンガ」における(擬人化)」『同上』 「MONSTER」/「殺医ドクター 蘭丸」/「アスクレピオス」/「ルシフェルの右手」/「屍活師 女王の法医学」/「バカレイドッグス」/「Dr.クインチ」/「ボクの彼女は発達障害」/「認知症のある人って、なぜ、よく怒られるんだろう?」『同上』 「25周年記念 るろうに剣心展」(全3回)『読売新聞』(京都版) 2021年6月1日/2日/3日 「夢幻紳士 新・怪奇篇」/「怪談少年」/「へび女はじめました」/「マリッジ・ミーティング」/「師匠と弟子」『文藝別冊 総特集 高橋葉介 大增補新版』河出書房新社、2021年6月 「『グラフィックノベル』の世界」『子どもの本棚』2021年6月号(「特集 見て、感じて広がる世界」)、日本子どもの本研究会、2021年6月 「楠本まきはなぜ論じられてこなかったのか」楠本まき、Landschaft・編『線と言葉 楠本まきの仕事』Landschaft、2021年7月 『朝日新聞』(大阪本社版)夕刊「いまだきマンガ塾」(←2021年3月) / 「マンガ/アニメ現在形」(2021年4月→)(ユースギョン(IMRC)、倉持佳代子(京都国際マンガミュージアム)、吉村和真(マンガ学部)とのリレー連載(連載中)) *https://book.asahi.com/writer/11001966 『朝日中高生新聞』「マンガこの人この2冊」(ユースギョン(IMRC)、雑賀忠宏(同)、倉持佳代子(京都国際マンガミュージアム)とのリレー連載(連載中))
学会発表など		<ul style="list-style-type: none"> 研究発表「歴史科系学習マンガにおける「改訂」」(瀧下彩子/山中千恵との共同発表)「日本マンガ学会第20回大会」(オンライン、2021年7月4日) 研究発表「歴史科系学習マンガの制作過程」(瀧下彩子/山中千恵との共同発表)「中部人間学会第21回大会」(オンライン、2021年11月27日) シンポジウム発表「〈学習/マンガ〉の可能性」『古代アメリカ学会主催第3回公開シンポジウム「まなぶ、たのしむ南北アメリカの古代文明 研究成果から学びの場へ」』(オンライン、2021年12月19日) セミナー「ミュージアムセミナー 新しいメディア芸術とミュージアム マンガとミュージアム ～マンガと社会の関係から考える～」(於・四日市市立博物館、2021年7月17日) セミナー「JAPAN FOUNDATION NEW DELHI presents ONLINE CULTURE COURSE WINDOW into JAPAN MANGA CULTURE: from GIJINKA KYARA (Anthropomorph)」(オンライン、2021年9月24日)
展覧会制作		<ul style="list-style-type: none"> キュレーション「ゲンガノミカタ マンガ原画を100倍楽しむ法」(於・高知まんがBASE、2021年7月17日(土)–8月31日(火))

その他		<ul style="list-style-type: none"> 科学研究費助成事業(基盤C)「『学習マンガ』の表現構造と制作現場における意味生成プロセスの実証的研究」(研究代表者=山中千恵) 研究分担者 文化庁メディア芸術連携等基盤推進事業「マンガ刊本アーカイブセンターの実装化と所蔵館ネットワークに関する調査研究」/「マンガ原画アーカイブセンターの実装と所蔵館連携ネットワークの構築に向けた調査研究」コーディネーター支援者 文化庁メディア芸術祭選考委員
住田哲郎 Sumida Tetsuro	論文・報告等	<ul style="list-style-type: none"> 調査報告「マンガ専門科目における留学生の日本語理解度調査」(宿利由希子・小柴裕子との共著)『専門日本語教育研究』22号、専門日本語教育学会、2020年12月 論文「日本マンガの翻訳不可能性に関する一考察」『国文論叢』58号、神戸大学文学部国語国文学会、2021年11月
講演		<ul style="list-style-type: none"> 「マンガで学ぶ日本語」東洋大学国際教育センター・ゲストスピーカー講演会(オンライン、2021年12月14日)
吉村和真 Yoshimura Kazuma	著作	<ul style="list-style-type: none"> 『マンガノミカタ 創作者と研究者による新たなアプローチ』(この史代/竹宮恵子との共著)樹村房、2021年10月
論説		<ul style="list-style-type: none"> 「『障害とマンガ』の多様な関係～作品・ジャンル・読者層～」『新ノーマライゼーション 特集 漫画で伝える～多様性を認める社会』2022年1月号、日本障害者リハビリテーション協会、2021年12月
新聞寄稿		<ul style="list-style-type: none"> 「追悼 さいとう・たかをさん 劇画の帝王 マンガ史に足跡」時事通信社配信(『福井新聞』2021年10月7日ほか掲載) 『朝日新聞』(大阪本社版)夕刊「いまだきマンガ塾」(←2021年3月) / 「マンガ/アニメ現在形」(2021年4月→)(伊藤遊(IMRC)/ユースギョン(IMRC)、倉持佳代子(京都国際マンガミュージアム)とのリレー連載) *https://book.asahi.com/writer/11001966 など
雑誌記事		<ul style="list-style-type: none"> インタビュー/企画・構成「人権特集 私は… マンガから読み解くステレオタイプ」『たかつきDAYS』(高槻市広報誌) 2021年3月号 インタビュー「特集 ベストブック2021 マンガから読む未来」『週刊東洋経済』2021年5月1–8合併特大号、東洋経済新報社 「歴史マンガマトリックス」図作成/インタビュー「特集2 大人の教養 いま、歴史マンガが面白い」『VISA』2021年6月号、VJAグループ など
講演活動		<ul style="list-style-type: none"> 東京都、貝塚市、高槻市、松江市、横浜市、大東市など、複数の自治体や学校等で、現代社会や人権問題に与えるマンガの影響力などについて講演を実施。
社会貢献		<ul style="list-style-type: none"> 文化庁メディア芸術連携基盤等整備推進事業の各種委員ほか、高知県、横手市、鳥取県、北栄町、熊本県などの自治体で、マンガに関するアドバイザー等を務める。

早いもので、この年次報告集も第5号となりました。そこで今回は、研究センターの開設当初の思い出を、少し振り返ってみたいと思います。

私たち、京都精華大学国際マンガ研究センターは、2006年11月に開館を控えた京都国際マンガミュージアムの運営を主な任務として、同年4月から活動を開始しました。有難くも、この2021年度には16年目を迎えることができたこととなります。

そのマンガミュージアムの開館準備で頭を悩ませたことの一つが、館に収蔵する資料のセレクトでした。そもそもマンガの雑誌や単行本のボリュームは膨大ですが、それに加え、作品の年代やジャンル、愛蔵版や文庫版などの種別、さらには、マンガの原画や評論・研究本などの周辺資料まで、検討対象は実に多岐にわたりました。はたして、どのあたりから手を付ければ良いのか、どんな相手からどれくらいの値で仕入れるのが適切なのか、それらを収蔵・公開するにはどれくらいのスペースが必要なのかと、理想と現実のあいだを行ったり来たりしながら、私たちは思案し続けました。

そうした折、研究センターの顧問に、文字通りの三賢人が就任されることになりました。現代マンガ図書館館長の内記稔夫さん、マンガ史の研究者・収集家の清水勲さん、評論家の呉智英さんです。私たちは大変勇気づけられました。結果的に、この日本を代表するマンガの収蔵や選書のプロによるご指南のおかげで、館のアーカイブポリシーが定まり、昭和期に発行されたマンガの雑誌・単行本を中心に、約20万点の資料群を擁してスタートを切ることができました。

あれから丸15年。現在の京都国際マンガミュージアムでは、30万点を超える蔵書に拡充するとともに、数万点におよぶマンガを国内外の施設に寄贈したり、文化庁の事業を通じて全国の関連機関との連携を進めたりと、「マンガのアーカイブ」に関する国際的拠点の一端を担うポジションにまで成長しました。

ただ、その間に、哀しいお別れもありました。内記さんが2012年に、そして清水さんが昨2021年に、それぞれ泉下の人になったのです。お二人のご尽力には、どれだけの謝辞を並べても足りません。個人的な思い出として、マンガミュージアムの開館にあわせる形で、お二人と秋田孝宏さん、そして私の四人で、京都新聞にマンガに関する記事を連載し、それを基に共著『マンガの教科書——マンガの歴史がわかる60話』（臨川書店、2008年）を出版したこともありました。まさしく光栄の一語ですが、今となっては、清水さんと内記さんとの最初で最後の共著となりました。

なお、清水さんのお仕事やご経歴については、追悼の催しとして2021年3月に実施したオンラインシンポジウム「マンガ史研究者・清水勲を受け継ぐ」で、宮本大人さんと新美琢真さんが詳細かつ的確に報告してくれました。その貴重なレポートは今号に掲載した通りですので、何卒ご覧いただき、在りし日の清水さん

を偲んでいただければと思います。

2021年は戦後マンガ史に大きな足跡を遺した漫画家たちの訃報も続きました。中には、私たちが大変お世話になった先生方もいらっしゃいます。末筆ながら、それぞれに衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。

先人たちの功績をしっかりと検証していくことは、私たち研究センターの大切な使命です。そのことを改めて胸に刻みながら、これからも日々の活動に勤しみたいと思います。

「**京都精華大学国際マンガ研究センター**」とは

—

—

2006年に創設された京都精華大学国際マンガ研究センター(IMRC)は、京都国際マンガミュージムを拠点に、マンガ文化全体に関する多面的な研究を実践している機関です。国内外のネットワークを構築する一方、マンガ本やマンガ原画などのアーカイブを行い、研究を進めています。その成果を展覧会やイベントなどの形で公開することで、マンガ文化の価値の創出と向上に貢献しています。

運営体制【2021年度】

—

—

センター長

小泉真理子

—

センター専任教員

伊藤遊

—

メンバー

具本媛/佐々木美緒/住田哲郎/ユースギョン/吉村和真

京都精華大学国際マンガ研究センター年次報告書 2021

—

—

発行日

2022年3月31日

—

発行元

京都精華大学国際マンガ研究センター

〒604 0846 京都市中京区烏丸通御池上ル

京都国際マンガミュージアム内

tel 075 254 7414 (マンガミュージアム)

fax 075 254 7424 (同)

web <http://imrc.jp>

—

制作

網島卓也/榊原充大/藏菌悠介

—

表紙デザイン

網島卓也

—

編集

伊藤遊

—

印刷

株式会社グラフィック

[pp.02背景] DELETER SCREEN SE-612 60L

[pp.08-09背景] DELETER SCREEN SE-1021 60L

[pp.20-21背景] DELETER SCREEN SE-898

[pp.34-35背景] DELETER SCREEN SE-617 60L

